

「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」

関連 2011 年 1 月 5 日

## 「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」福島からも 100 名以上が参加！ 1 月 10 日(火) 13:30～、災害対策本部 3F にて、会議前記者会見を行います。

2012 年 1 月 14、15 日(土、日)の 2 日間、パシフィコ横浜にて、「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」が開催されます。福島の実状をみつめ、原子力からの脱却を世界に発信するこの国際市民会議には、20 カ国 50 名以上の海外ゲスト、趣旨に賛同する国内の専門家やアーティスト、全国から数千名の市民が集まります。福島からの参加者向けには、福島発着の無料送迎バスもあり、現在 100 名以上がこの会議に参加する見込みです。

また、会議前日となる 1 月 13 日には、この会議のために来日するゲスト約 50 名が福島県を視察します。福島市、南相馬市へ訪問し、地元で放射能の取り組みを行っている市民団体から活動の話を聞きます。伊達東の仮設住宅にも訪問、避難住民と意見交換もする予定です。

来週 1 月 10 日(火)、会議事務局メンバーが福島を訪れ、この会議に参加する地元の方々とともに、福島県災害対策本部にて記者会見を行います。別紙にて、13 日に行う福島視察プログラムの予定、会議の運営に関わり記者会見でも発言する武田信大(24 歳、郡山市出身、NGO ピースポートスタッフ)のプロフィールをお送りします。記者会見後のインタビューなども可能ですので、取材・報道など合わせてご検討ください。よろしくお願いたします。

### ● 記者会見 概要

【日 時】 2012 年 1 月 10 日(火) 13:30～

【場 所】 福島県災害対策本部 自治会館 3F 会見スペース (福島市杉妻町 2-16)

【出席者】 川崎哲(「脱原発世界会議」実行委員長代理/ピースポート)

竹内俊之(国際協力 NGO センター・福島コーディネーター)

中手誠一(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク代表)

高村美春(つながろう南相馬！)/武田信大(ピースポート)

### ● 「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」の概要 <公式ホームページ> <http://npfree.jp/>

2012 年 1 月 14、15 日に、パシフィコ横浜にて開催される「脱原発」を目的とした国際市民会議。ピースポート、環境エネルギー政策研究所、グリーンアクション、グリーンピース・ジャパン 原子力資料情報室、国際環境 NGO FoE Japan の 6 団体の実行委員で構成される。会議には、ドイツやチェルノブイリなど約 30 ヶ国からのゲストが一堂に会するほか、福島をはじめ原発立地各県からも多くの市民が集まる。脱原発や子どもを守るための取り組みを紹介する約 100 個の「もちこみ企画」や、アーティストによる音楽・トーク、映画祭や写真展、ふくしまの部屋など、2 日間を通して様々な企画が催される。

<主なゲスト> 飯田哲也(環境エネルギー政策研究所所長)/佐藤栄佐久(前福島県知事)/櫻井勝延(南相馬市長)/肥田舜太郎(広島被爆医師)/小池栄一(福島市大波地区)/レベッカ・ハルムス(欧州議員/ドイツ)/モオタシム・アワームレ(ヨルダン国会議員)/アントン・ヴドヴィチェンコ(NGO ラジニチ・チェルノブイリの子どもたち/ロシア)/野中ともよ(NPO 法人ガイア・イニシアティブ)/湯川れい子(音楽評論家)/加藤登紀子(ミュージシャン)/SUGIZO(ミュージシャン)/上野千鶴子(東京大学名誉教授)/山本太郎(俳優)/宮台真司(社会学者)ほか

### ● 「脱原発世界会議」福島からの参加予定グループ一覧

会津放射能情報センター/自然医学放射能防護情報室/子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク/寺子屋方丈舎/福島まで未来のエネルギーを考える会/福島県有機農業ネットワーク/りょうぜん里山がっこう/福島支援・人と文化ネットワーク/会津みしま自然エネルギー研究会/お産と地域医療を考える会津の会/自然育児友の会/つながろう南相馬！/フロンティア南相馬/福好再見/南相馬救援隊/ほか「ふくしま会議」参加団体など

### ● 取材申し込み・お問い合わせ先 「脱原発世界会議」事務局 (担当:草深、合田)

TEL. 03-3363-7561 当日連絡先:090-4805-0613(合田) MAIL. office@npfree.jp

# PRESS RELEASE

<参考資料1>



脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA  
Global Conference for a Nuclear Power Free World  
脱原発世界会議事務局：ピースボート  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1 B1F  
TEL：03-3363-7561 FAX：03-3363-7562  
office@npfree.jp

## 「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」1月13日福島視察プログラム

(2012年1月5日、暫定スケジュール)

2012年1月12日(木)、13日(金) ピースボート同行者：川崎、メリ・ジョイス、一瀬、高橋、合田

### <2012年1月12日(木)>

時間帯	行程
夕方	新幹線にて福島へ出発 ホテルチェックイン、バンケットルームにて食事会 (宿泊：福島ビューホテル 福島県福島市太田町13-73)

### <2012年1月13日(金)>

時間帯	行程
午前	福島市内 NPO 市民団体の皆様(CRMS 市民放射能測定所丸森あやさん、ふくしま有機ネット高松さん、放射能から子どもを守る福島ネットワーク吉野さん、福島大学災害復興研究所丹波さんら)バス2台に分乗し、福島市～伊達市へ移動(30分)  元飯館村前田区区长 長谷川健一さん@伊達東仮設住宅集会場 バス2台に分乗し、伊達市～南相馬市へ移動(2時間)
午後	南相馬市内 NPO 市民団体の皆様@みなみそうま道の駅ホール つながろう南相馬 A&S 高橋さん、フロンティア南相馬池田さん、つながろう南相馬高橋美加子さん、安心安全プロジェクト吉田さん、南相馬除染研究会箱崎さん(高橋美加子さんに概括的話をしてもらい各スピーカー5分程度その後質疑応答)
夕方	バス2台に分乗し、南相馬～福島へ(移動2時間) 福島-東京:MAX やまびこ154号
夜	東京-横浜:東海道本線(伊東行き) 横浜-桜木町(根岸線)、ホテルチェックイン、宿泊

■「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」は、下記6団体が実行委員会を形成し、企画・運営にあたっています。

ピースボート、環境エネルギー政策研究所、グリーンアクション、グリーンピース・ジャパン 原子力資料情報室、国際環境 NGO FoE Japan

## 福島出身のピースポートスタッフ・武田信大(たけだ のぶひろ) 被災地ボランティアから、「脱原発世界会議」へ

プレスリリースにてお送りした1月10日の記者会見には、現在「脱原発世界会議」の事務局スタッフとして精力的に活動する福島出身の武田信大をご紹介します。記者会見終了後、インタビューなどご希望される場合は、事前にご相談ください。よろしくお願いいたします。

### ● 武田信大(たけだ のぶひろ)

1987年福島県郡山市生まれ。24歳。7人兄弟の4番目(次男)として育った。清陵情報高校卒業後、日本大学工学部へ。大学を中退し上京。アルバイトをしながら、演劇で舞台を目指す中、ピースポートを知る。ピースポートのボランティアスタッフとして、22歳で地球一周の船旅に参加。ベトナム、エジプト、キューバなど、各国で国際交流を行った。帰国後、実家の郡山で3月11日の東日本大震災を体験、被災する。ピースポートの呼びかけに応じ、ボランティアとして宮城県石巻市へ。その後、ピースポート災害ボランティアセンターのスタッフとなり、11月より「脱原発世界会議」の事務局スタッフとして、1月の会議に向けて精力的に活動している。



### ● 宮城県石巻市での活動

NGOピースポートは、国際交流の船旅に加え、95年の阪神淡路大震災以降、国内外の災害救援活動を行ってきた。東日本大震災では、震災直後の3月17日、救援物資を届けるため、スタッフが宮城県石巻市へ。4月に新たに一般社団法人としてピースポート災害ボランティアセンターを設立。全国、また世界中からのべ5万人を越えるボランティアの活動をコーディネートしながら、炊き出し、泥かき、漁業支援などを行ってきた。現在も、仮設住宅支援などを継続している。

武田は、3月21日から石巻入り。第一次派遣のボランティアが活動に入る前の準備隊として活動。4月以降は専従スタッフとして石巻市を訪れつつ、東京の事務所でボランティアをまとめてきた。その間も、地元である福島に対してできることがあればと、郡山や南相馬を訪問しながら県内に残った住民の方々と対話を行ってきた。夏休みに、南相馬市の子どもたち約50人がピースポートの船で国際交流を行った「福島子どもプロジェクト」の立ち上げ、実施サポートにも関わった。

### ● 原発問題への関心

出身である郡山市は、福島第一原発から約50キロという場所。しかし、震災までほとんどそのことを意識せずに過ごしてきた。震災後は、「とにかく被災地のために、自分にできることを」と石巻市でのボランティアに関わる中で、支援が遅れる福島のこと、幼い子どもを抱える実家の姉が放射能への不安を口にしていることなど、徐々に地元で起きた現実を目を向けるようになった。

その後、南相馬市を訪れたときも、避難するのか留まるのか、ぎりぎりの状況に追いつめられている人たちと出会い、これまで原発に対してあまりに関心なかった自分にも腹が立ったという。同時に、社会全体の無関心と無責任さにも驚かされた。「福島だけの問題じゃない、みんなの問題。特に僕と同じ若い世代の問題のはずだし、福島とそれ以外の地域にある意識の距離を埋めたい」と思い、たくさんの若者にこの現状を伝え、考えてもらうきっかけにしたいと「脱原発世界会議」の運営に携わることに決めた。